

「がん進展制御研究所セミナー」を開催

2013年6月11日

6月11日(火)にがん進展制御研究所棟4階 会議室において、金沢大学大学がん進展制御研究所 後藤 典子教授を講師に「乳がん幹細胞の自己複製とニッチ形成の分子機構」と題して、がん進展制御研究所セミナーを開催しました。

後藤先生は、ヒト乳がん幹細胞の培養方法を樹立して、それを用いたシステムの時系列DNAマイクロアレイ解析により、がん幹細胞の維持に関わる分子機序を明らかにしました。セミナーでは、HRG/PI3Kシグナルから、様々なシグナル経路が活性化し、その下流では小胞体ストレスシグナルが乳がん幹細胞の維持に関与している事をわかりやすく説明して頂きました。また、肺がん組織を用いた同様の解析により、早期肺がんから予後を診断する分子群を特定した話も紹介して頂き、大変興味深い内容の講演会でした。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約50名が参加し、大変活発な質疑応答や意見交換が行われました。



乳がん幹細胞の自己複製とニッチ形成 の分子機構

講演者

金沢大学がん進展制御研究所
分子病態研究分野 教授

後藤 典子 先生

日時：平成25年 6月11日(火) 17:00～18:00

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

後藤典子先生は、東京大学医科学研究所で乳がん幹細胞の研究を続けられ、この4月から金沢大学がん進展制御研究所の教授として赴任されました。臨床検体や乳がんマウスモデル等を用いた研究から、さまざまなパラクリン・オートクリン因子が乳がん幹細胞の維持に関わっていることを発見されました。セミナーでは、これらの最新の研究成果について紹介して頂きます。

皆様奮ってご参加、ご討論下さい。